

あいち病害虫情報 最新情報

平成 22 年 7 月 15 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

梅雨明け間近？

東海地方は今日現在、まだ梅雨明けしていません（平年は7月20日）。6月13日頃に梅雨入りした後、天気は周期的に変わりましたが、平年同様に曇りや雨の日が多い状況でした。気温は平年よりも高く、降水量、日照時間は平年並に推移しました。向こう1か月の季節予報によれば、期間の前半は梅雨前線や気圧の谷の影響で平年と比べ曇りや雨の日が多く、期間の後半は平年と同様に晴れる日が多い見込みとされています。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、天候を考慮に入れて、的確な防除を心がけましょう。農薬の散布に際しては、朝夕の涼しい風の少ない時間帯を選んで作業するなど、健康管理にも留意しましょう。

イネの病害虫

葉いもちが一部のほ場で確認されるようになりました。今後、曇雨天が続くと、コシヒカリ等では葉いもちから穂いもちへの移行が心配されます。なお、いもち病の発生状況や防除薬剤については、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

セジロウンカは、例年より早い時期から県内各地のほ場で確認されており、発生量は平年に比べ多い状況です。ほ場での発生状況に注意しましょう。トビイロウンカについては、現在のところ発生を確認していません。

コブノメイガの発生が例年に比べ多い状況です。上位3葉に被害が及ぶと登熟に影響があるので、発生が目立つほ場では防除を実施しましょう。

斑点米カメムシ類に注意！！

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカスミカメムシ類が、畦畔のイネ科雑草を中心に平年より多く確認されています。また予察灯における誘殺数も例年よりやや多くなっています。カメムシ類は水田周辺の畦畔や土手などに生息するイネ科雑草等で増殖するため、除草に努めましょう。しかし、出穂期間際の除草はカメムシ類を逆に水田へ追い込むことになるので控えてください。

果樹の病害虫

モモでは、コスカシバのフェロモントラップにおける誘殺数が多い状況です。発生の多いほ場では、収穫後8月から9月に主幹部および主枝に薬剤散布し、幼虫の食入を防ぎましょう。モモ灰星病は、伝染源である花腐れの発生量が平年並であったことから平年並と考えられますが、十分注意し、発病果を見つけたら直ちにほ場から持ち出して適切に処理しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分するとともに、耐性菌の発生を避けるため同一系統薬剤の連用を避けて防除を行うよう心がけましょう。

ナシヒメシクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並の状況で推移しています。しかし、7月以降は幼虫がナシ果実に食入するため、最も防除が重要な時期になります。今年の成虫の発生ピーク時期は平年並で西尾では7月8日頃でした。防除適期は発生ピークから10日までです。この時期は早生品種の幸水等に特に重点をおいて防除をしましょう。また、コンフェューザーを設置しているほ場で、8月以降に再度設置する予定がない場合、収穫期間中に効果が低減してナシヒメシクイ等による被害が出る可能性が考えられます。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

ブドウでは、一部地域でべと病の発生が多くなってきています。曇雨天が続くと急激に

まん延する場合がありますので、注意しましょう。

ウンシュウミカンのチャノキイロアザミウマ

アメダス各地点におけるチャノキイロアザミウマの第4世代成虫の発生ピークは、東海市7/23、名古屋市7/25、岡崎市7/27、愛西市、豊田市、蒲郡市、豊橋市7/28、南知多町、伊良湖7/30と予測されています。また、稲武では第3世代成虫の発生ピークが8/3と予測されます。世代が進むにつれて発生時期の幅が広がってきています。発生ピーク予測日を目安にして、ほ場を観察し、適期防除に努めましょう。ウンシュウミカン、ブドウ及びカキの防除薬剤については、7月1日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

果樹カメムシ類

果樹カメムシ類の越冬成虫は、現在、本来の餌であるヒノキ球果を求めて山林に移動していると思われていますが、本年は越冬成虫が非常に多く、餌であるスギ・ヒノキ球果が非常に少ないため、越冬成虫が再び果樹園へ飛来することが予想されます。梅雨が明けて晴天の日には、活動が活発になりますので、今週末は特に園内への飛来に注意してください。詳細については、本日発表の「果樹カメムシ情報第3号」を参照してください。

オオタバコガの発生に注意！

キクほ場（豊川市）に設置したオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや多くなっています。今後のほ場での発生状況に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

トマトの苗はタバココナジラミの寄生に注意！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるTYLCVの感染防止が特に重要なので、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
 - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
 - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
 - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
 - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せず、適切に処理しましょう。
ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820